

明秀学園日立高等学校 第一学年通信

東風吹かば

PTA特別号
平成25年度

東風(こち)吹かば にほひおこせよ梅の花
あるしなして 春を忘るな
昔原道真

昔原道真の愛した白梅が、主人を慕って一夜にして京都から太宰府に飛んできたという、「飛び梅」伝説の句より。

367名の「白梅たち」＝明秀生

明秀日立での学園生活始まる

晴れやかに光り輝く入学式から一カ月が過ぎ、生徒自身にも学校生活に対する慣れと落ち着きが見られ、心から弾ける笑い声が校内に響くようになりました。

4月の学年状況

少々緊張感を持ち臨んだ対面式では、2、3年の先輩達を前に、生徒会や部活動の紹介発表に圧倒されながらもキラキラと輝く眼差しが印象的でした。

入学式3日後に行われた2泊3日の「新入生オリエンテーション合宿」では、まだ慣れないクラスメイトと寝食を共にし、初めて迎える学校生活に関する諸注意や、明秀生としての心構えなどについて学びました。学習面ではスタディーサポート(模擬試験)を実施。それぞれ、中学までの基礎学力の理解度や習熟度など、それらの確認として良い参考資料になったテストでした。模擬授業では、中学校とは一味違う授業展開に不安と「がんばらなくては」という危機感を覚えた生徒もいたようです。事後アンケートを見ると、こ

れからの3年間をこの学び舎「明秀日立」でどのように過ごすか。また、高校生としての進路や目標など、一人ひとりが改めて考える良い機会になったようです。

実際の学校生活に戻り、本格的な授業が行われるようになると、新入生たちはもう立派な「明秀生」の一員として認められ、教員も先輩たちも、今までとはちよつと違った眼で生徒たちを見るようになってきます。校則違反や基本的な生活習慣の乱れなどが見られた場合には、時に厳しい指導を受けることもありました。

今年度初めての実施となりました「制服セミナー」は、普段の制服の着こなしの秘訣をを伝授していただき、制服は学校の顔であり、制服を着崩していることはその後の進路活動はもとより、自分以外の明秀生や先輩たちに迷惑が降りかかることを学びました。それが効いてか、今のところ、シャツの第一ボタンをしつかりと留め、ネクタイやリボンをズリ下げない、ズボン

の腰履き、スカートを短く折り返すような生徒は見当たらず、きちんと制服を着こなし生徒がほとんどです。常にそれが当たり前であることを認識し、生徒全員が爽やかな制服姿で学校生活を送つてほしいと願っております。

「文武両道」の精神

入学前から部活動(特に運動部)が盛んな本校を積極的に選んで入学した生徒も多くいると思います。その中には、毎日夜遅くまで練習に励み、帰宅時間が10時になってしまう生徒もいると聞きます。それぞれが大きな目標や夢を抱え、厳しい練習に耐えながら日常の学校生活を送ることは並大抵の努力だけでは言い表せません。疲れた体は帰宅後の自学自習をする余力を残していないでしょうし、時には睡魔に襲われ、授業中に居眠りすることも…。しかし、高校生の本業を考えると、「学業」あつての

「明秀生」であることを忘れてはなりません。つまり、「文武両道」をなし得る者こそ「白梅」＝「明秀生」なのです。その精神を忘れず、学業にスポーツに全力で取り組む生徒を、我々教員はサポートしていきます。学習習慣を確立させ、卒業後の進路実現を広角で豊かなものとなるように熱い指導にあたります。

また逆に、学業だけが優れていても、この意に反すると云えます。現在、部活動等に所属していない生徒たちも、運動部ばかりでなくとも、文化部、同好会などへの積極的な参加、入部、入会を勧めます。

今からでも遅くはありません。一度きりの高校生活(＝青春時代)をより充実したものとなるよう、前向きに検討してみようでしょうか。

※次年度(平成26年度)、文化部のインターハイと呼ばれる「全国高等学校総合文化祭」が本県で開催されます。文化部に入部して参加することができれば、47年に一度?のチャンスかもしれません。

自己探求課外スタート

本校特色の一つでもある、A・Bコースを対象とした「自己探求課外」が、来週21日(火)から始まり

ます。実施曜日は、火・金・隔週土曜日となります。運動部に所属している生徒はそのまま部活動に入ります。学業で疲れた身体や心を、自分で選択した好きな講座でリフレッシュ。自分の新たな可能性を見つけ出すとともに、将来のために総合的な力を育む課外授業となります。

今年度から外部講師を招いた新しい講座を開設しました。ご紹介します。

軟式野球・水泳・ヒップホップダンス・NPO明秀日立・服飾(洋服)・ガーデニング・ネイルアート等 全35講座。

何でもやっであげるとは 賤でも教育でもない

自ら考え、自ら行動できる人づくり

1960年代、高度経済成長期の最盛期。急速な欧米化が日本人の生活習慣を大きく変えた時代、わたしたちは生まれ育った。教育界においても大きな変化をみせ、後に社会現象とまで言われる受験競争、家庭内暴力など社会の歪みが生んだ教育問題も大きく取り立たされた時代であった。高学歴、高収入、高身長(いわゆる3高)がもてはやされたバブル景気。1991年に崩壊するまで存分にそ

の恩恵を享受し、何不自由ない豊かな時代を生きてきた。あの頃の夢を引きずり、家庭を持った今も尚、バブルの復活を期待しながら子育てに翻弄している。子どもには惨めな思いをさせたくない。他の誰よりも幸せに、経済的にも豊かになってもらいたい。親としての子どもに対する愛情が歪んだ形で現れてしまつていた。「甘やかしてしまつた」これは、実際に高校生を子に持つ40代の保護者

現している句である。そこで、注目したいのが下の句の「：主なしとて春を忘るな」である。今回、私はこう解釈した。「学校を巣立ち離れた将来、毎年春になると東風に乘せて、どこからか卒業生の名声を聞かせてほしいな「白梅たち(＝明秀生)」よ。わたしたち(教師)がいなくても春になったら自分の力で花を咲かせておくれよ。」と。我々学年団が掲げる「自主、自立心の養育」にのつとつた願いを本句の解釈として養題に込めました。

の実態と声です。一部の例としてとらえて頂いてよろしいのですが、何か思い当たる保護者の方がいましたら、お子様との関わり方について、もう一度考えてみませんか。

「子育て」もあと少しです。子を持つ親として、共通の話題や情報を交えてこの難局を乗り越えていきましょう。子どもの将来のために。そして、わたしたち自身のためにも。

自主・自立心の養育

我々も常に意識しなければ、前述のような同じ過ちをおかす可能性があります。新しい知識や教養を教える職故の使命感が陥らせる罠であるかもしれません。生徒が分からない(知らない)事項や事象について、ただ解答や解説に沿つて全てを教えてしまつては本末転倒の事態である。私たちの教えをヒントに生徒自ら考え、自力で答えを出

せるよう導くことが教育の本質であると断言します。賤についても同様のことがいえるかもしれません。元来「赤子の魂、百まで」とあるように、早ければ早いほど身につくし長く忘れることはない、とされてきました。しかし、反折期などの成長過程を経て育つた高校生を前に躰などと大きな声で示すべきではないかもしれません。学校で行われる生活指導、生徒指導はそれにあたります。生徒の誤つた考えや行動において正しい方向に導くことがわたしたち教員の勤めです。善悪の追及だけではなく、「なぜ注意されたのか」「なぜ怒られたのか」として「これから自分はどうすればいいのか」と考えられるように仕向けることが必要となる。時折、突き放したような言葉や態度で接することもあるかもしれません。そのようなとき、しつかりと自分と向き合い、じっくり考える時間を与えるのも一つの方法だと思います。もちろん全ての生徒に共通することではありませんが。

正副委員長会議

自主・自立心を育てる試みとして、毎月一回、ホームルーム正副委員長に招集をかけ、ホームルームの状況を報告してもらいます。今月は14日に行われ、学習状況や教室内の環境状況などを20人の委員の前でそれぞれが発表した。最後には、授業中の受講姿勢に関する討議を行い、白熱した意見が飛び交う場面が見られました。

進路情報

平成二十四年度進路状況を振り返る

【進学関係】

●Aコースでも特別クラスを編成しました
進学に関しては、A0試験、推薦入学試験が終了し、一般入学試験の受験者も例年以上の頑張りをみせました。昨年度の進学希望者の傾向として一番にあげられることは、一般受験を希望する生徒が増えてきたことです。これまでは一般受験者はSTコースSコースの生徒がほとんどであったのですが、昨年はAコースの生徒も数が増え、12月からはセンター試験の受験者を中心とした特別クラスを編成し、STコースSコースと同様の特別編成授業を実施しました。今後もセンター試験受験者と一般入学試験の受験者が増え、次年度以降もこのようなクラスが編成されると素晴らしいと思います。A0試験や推薦入学試験のような学力試験が課されない入学試験は肯定されるべき物ではありません。しかし、人間の能力は学力だけで測れる物ではないとはいうものの、それは学力が不要と同義ではないことは明らかです。受験に目標を絞った学習はモチベーションが高いので学習効果が期待できます。本校生徒全体としてはまだ一般入学試験にチャレンジしようという者は少ないのが現状ですが、今後このような生徒が増えてくることを期待します。

●国公立大学、難関私立大学を目指す生徒が増えていきます
一昨年度、国公立大学合格者36、MARCH29、という過去最高を記録した本校ですが、昨年度も先輩に続けと多くの生徒が頑張りをみせました。
昨年度の主な国公立大入試結果を申し上げますと、筑波大学、東京学芸大学、千葉大学、横浜国立大学、防衛大学校、茨城大学、首都大学東京、都留文科大学、高崎経済大学などがあげられます。この中で、防衛大学校については、合格者1名、補欠1名という結果でしたが、一次試験の合格者は6名と立派な結果を出しています。そして、申し添えておくならば法政大学、茨城大学の合格者と防衛大学校の一次試験の合格者の1人はSコースの生徒でした。Sコース生の帰郷に大きな拍手を送りたいと思います。また、Aコースからは一般入学試験で東京都市大学（旧武蔵工業大学）に合格ができています。理系の志願をする際にはカリキュラムの制約もあるAコースからの合格ですから立派な結果であったと思います。
●医療福祉と保育系を目指す生徒が増えました
少子高齢化社会を背景として進学、就職を問わず医療福祉の道を目指す生徒が

増えてきたように思われます。看護師を目指して進学する生徒はこれまでも少なくありませんでしたが、昨年は確実に数を増やしています。さらに、理学療法士、作業療法士、言語聴覚療法士、柔道整復師などを目指す生徒が増えました。なかなか厳しい道とは思いますが、人の命にかかわる仕事はやりがいがあります。是非、志を貫いて頑張つてほしいものです。
また、保育士を希望する生徒が増えたのも昨年の特徴と言えましょう。ここ数年、短期大学の保育科に進学する生徒は減少し、4年制大学や3年制の専門学校で保育士を目指す生徒が増えていましたが、昨年は短期大学の保育科への志望が回復しています。入学試験にピアノを課する短期大学が減り、ピアノの指導体制を整えて入学してからでも十分な練習ができることをアピールする短期大学が増えてきたことも短期大学志願者が増える一因と思われます。しかし、保育士、幼稚園教諭を志すなら高校生のうちにピアノを習っておくにごしたことはありません。
【就職関係】
●就職氷河期のまっただ中でのスタート
本年度、本校生徒の就職活動は非常に厳しい状況でのスタートでした。7月、全国的に見れば景気は上昇傾向とニュース等では報じられていましたが、茨城県、特に東北地区の求人状況は非常に厳しいものでした。本校に送られてくる求人票

を見る限り、その数は昨年度とほぼ同等でしたが、その職種をみると決して喜べるものではありませんでした。まず、昨年も減少した製造業（技術職）の求人がさらに減少していました。また、運輸、販売、外食産業等の職種も減少。そして、医療・福祉系の求人のみが増加し、結果としてはほぼ同数の求人を得ることが出来ていたのです。医療・福祉系の求人増は、この道を志すものにとっては幸いです。が、必ずしも多数派ではありません。就職希望者にとつては喜ぶことのできない募開けでした。
このような状況を生み出している背景には、主要企業の経営低迷とその傘下にある中小企業の生産縮小という日立市の特殊な事情があります。指定校として本校が上がつている企業でも、指定校は本校以外にも、数校あり、しかも求人は1〜2名などというケースも珍しくありません。各企業若干名の募集に対して、多くの高校生が群がるという状況でした。このような状況下で9月の就職試験開始日直後に出席できた生徒が志望者40人の約半数、内定者も9月に2人、10月4人というまさに危機的な状況で、就職氷河期を生徒達と共に体験しているというのが実感でした。
●転機
このような状況に好転の兆しが見えだしたのは、11月26日に開催された「水戸地区合同就職面接会」と12月6日の「日立地区合同面

接会」でした。水戸では66社約20名の求人に対して60人以上の高校生が集まり、日立では高萩地区も含めて約43社150名に対し400名の高校生、必死な表情で企業のブースをまわる彼らの様子はまさに「就職戦線」そのものでした。この2回の面接会に本校からはそれぞれ10人の生徒が参加しましたが、激しい競争にさらされたにもかかわらず健闘し、面接会後入社試験を突破して内定を勝ち取るものが続出しました。面接を受けた企業に内定した者は9人、全員内定に光が見えた時期でした。
●現時点の状況（2月8日）
この原稿の執筆時点で就職希望者40人に対して内定者35人です。内定率88%、残る5人は現在も少ない求人をあさるようにして就職活動を継続中ですが、内定率100%を目指して最後まで全力で支援しています。
本年度の内定者を見ると医療・福祉系が11名(31%)、製造業が9名(26%)、サービス業が7名(20%)、建築・設備系が5名(14%)、農業が2名(6%)、公務員が1名(3%)となつています。過去において就職先のトップは製造業でしたが、現在は医療・福祉系の職業に就く生徒の方が多くなつています。これは求人数の関係で致し方ないところですが、意志をしっかりと持ち、粘り強く就職活動を行わなければ内定を勝ち取ることが出来ない時代であることがはつきり見て取れます。

●内定を勝ち取るために
高校生にとって激しい就職活動を強いられた本年度と言えるでしょう。今後この傾向が改善されることについては、その兆しも見えていないというのが現状です。今後、高校卒業後に就職を希望する生徒にとつて、少ない求人から内定を勝ち取るためには、どのような準備、心構えが必要となるのでしょうか。いくつかあげてみたいと思います。
企業は即戦力の社員として、基礎学力やコミュニケーション能力、基本的な生活習慣（礼儀作法、身だしなみ、時間・健康管理など）等が身についた人材を求めています。これらの事柄は学校生活の中でじっくり身につけていかなければなりません。集団生活の中で自分の立場を理解して行動できる力も身につけるべき重要な要素と言えるでしょう。
そして、就職活動においては早期の準備開始(面接、小論文・作文、履歴書作成など)が重要です。備えあれば憂い無し、肝に銘じてほしいものです。そして、何より重要なことは「最後まで諦めない」ことでしょう。これから就職戦線に向かう下級生にはぜひこれら

保護者の皆様へ
本校の教職員は、お預かりするお子様の指導に常に全力であたります。しかし、目の届く範囲にも限界がございます。ご家庭内での生活状況、活動状況の掌握につきましては、保護者の皆様のご協力が必要となります。以下の事項につきまして、ご理解の上、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。
●容姿・頭髪・化粧など
朝の登校時、また帰宅時の制服の着こなしや髪型、髪色等について、校則に準じたものであるか、毎時点検してください。
●欠席・遅刻・早退の連絡
病気などの諸事情でやむなく欠席、遅刻、早退する場合は、必ず保護者から学校(担任)に連絡を入れてください。
●登校時の持ち物
持ち物には必ず記名をお願いいたします。学校(学習)に必要ないものは持つてこさせないでください。また貴重品の管理については自己責任となりますが、やむおえない場合は、担任に預けるなどしてください。
カバンの形状は自由ですが、華美で目立つものは避けてください。「手ぶら」は禁止です。
●携帯電話
持ち込みはできませんが、校内での使用は一切禁止となります。学校生活では身

に着けることなく、電源を切つてカバンにしまつておきます。万が一、使用したり、音が鳴つてしまった場合は、学校で預からせてもらいます。
●昼食・弁当
パンや弁当の販売はありませんが、当面は弁当を持たせてください。パン、ジュース類の自動販売機は校内に設置されています。
●登校時間・下校時間
登校時間は始業5分前となっております。ST・Sコースは8時05分。A・Bコースは8時25分まで入室完了するより、時間に余裕を持つて送り出してください。
下校時間は、コースや部活動などでそれぞれ異なりますが、あまりに遅い帰宅時間の際は、注意してください。
●その他、友人関係など
友人関係や学校での出来事など、お子様と会話する機会を多く持つて、些細な言動や動向から状況把握に努めてください。
アルバイトは原則禁止となります。授業料減免制度や各種奨学金制度のご利用をお勧めします。
その他、何でも結構です。ご不明、ご心配なことがありましたら、学校までお問い合わせください。
全ては、お子様の「夢実現」のために、
(学年主任)